

■ 平成28年社会生活基本調査結果

本書は、総務省統計局から公表された「平成28年社会生活基本調査結果」を基に、主要項目について、岐阜県の概要をとりまとめたものです。

<総務省統計局 社会生活基本調査関係>

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/index.htm>

<調査の概要>

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/gaiyou.htm>

<用語の解説>

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/kaisetua.pdf>

<結果の概要>

【生活時間に関する結果】

1 1日の生活時間の配分

(1) 概観

○ 1次活動時間は減少、2次活動時間、3次活動時間は増加

15歳以上の県民の1日の生活時間（週全体平均）をみると、睡眠、食事などの1次活動時間は10時間31分、仕事、家事などの2次活動時間は7時間3分、自由に使える時間である3次活動時間は6時間26分となった。

男女別にみると、1次及び2次活動時間は、女性の方が長く、3次活動時間は男性の方が長い。

前回調査（H23）と比べると、男女とも1次活動時間が減少した。また、男性は2次活動時間が減少し、3次活動時間が増加しているが、女性は2次活動時間が増加し、3次活動時間が減少した。

全国と比べると、本県の2次活動時間は5分長い。また男性は6分短い、女性は15分長い。

表1 1日の生活時間(15歳以上)-週全体 (単位：時間.分)

		総数		男		女	
			増減		増減		増減
岐阜県	1次活動	10.31	△ 0.04	10.26	△ 0.04	10.37	△ 0.03
	2次活動	7.03	0.03	6.46	△ 0.09	7.19	0.15
	3次活動	6.26	0.01	6.49	0.15	6.04	△ 0.13
全国	1次活動	10.40	0.02	10.32	0.01	10.47	0.02
	2次活動	6.58	0.03	6.52	0.01	7.04	0.05
	3次活動	6.22	△ 0.05	6.36	△ 0.02	6.09	△ 0.07

注：増減は前回調査（H23）からの増減

2 1次活動時間

(1) 睡眠時間

○すべての曜日別で減少

1次活動時間の大半を占める睡眠時間は、男性は7時間46分、女性は7時間31分で、男性の方が15分長くなった。

前回調査（H23）と比べると、週全体、平日、土曜日、日曜日のいずれにおいても減少した。

男女別にみると、前回と同じ時間となった女性の平日の睡眠時間を除き、すべての曜日別で減少した。

表2 曜日別睡眠時間(15歳以上) (単位：時間.分)

		週全体		平日		土曜日		日曜日	
			増減		増減		増減		増減
岐阜県	総数	7.38	△ 0.03	7.29	△ 0.01	7.54	△ 0.08	8.10	△ 0.04
	男	7.46	△ 0.04	7.36	△ 0.03	8.00	△ 0.12	8.21	△ 0.02
	女	7.31	△ 0.02	7.22	0.00	7.47	△ 0.06	8.00	△ 0.05
全国	総数	7.37	△ 0.02	7.27	△ 0.02	7.54	△ 0.04	8.12	0.00
	男	7.42	△ 0.04	7.31	△ 0.03	8.00	△ 0.07	8.21	△ 0.02
	女	7.32	△ 0.01	7.22	△ 0.02	7.48	△ 0.03	8.04	0.02

注：増減は前回調査（H23）からの増減

3 2次活動時間

(1) 仕事時間

○男女ともに仕事時間が増加したが、日曜日は男女とも減少

2次活動の約半分を占める仕事時間を、有業者(15歳以上)についてみると、男性は6時間56分、女性は4時間52分となっており、全国と同様に男性の方が約2時間長い。

前回調査（H23）と比べると、男性は3分、女性は12分増加した。

全国（男性6時間49分、女性4時間47分）と比べると、本県は男性は7分、女性は5分長い。

曜日別にみると、平日が7分増加したが、土曜日が4分、日曜日が3分減少した。

表3-1 曜日別仕事時間(有業者) (単位：時間.分)

		週全体		平日		土曜日		日曜日	
			増減		増減		増減		増減
岐阜県	総数	5.59	0.03	7.12	0.07	3.49	△ 0.04	2.07	△ 0.03
	男	6.56	0.03	8.21	0.01	4.30	0.16	2.15	△ 0.05
	女	4.52	0.12	5.50	0.22	2.57	△ 0.30	1.56	△ 0.01
全国	総数	5.55	△ 0.07	7.05	△ 0.04	3.46	△ 0.15	2.19	△ 0.05
	男	6.49	△ 0.07	8.09	△ 0.08	4.23	△ 0.12	2.34	△ 0.03
	女	4.47	△ 0.03	5.42	0.01	3.01	△ 0.15	1.59	△ 0.08

注：増減は前回調査（H23）からの増減

(2) 家事関連時間

○依然として大きな男女差

家事関連(家事、介護・看護、育児及び買い物)の時間を合計して、男女別にみると、男性は44分、女性は3時間45分で、全国同様、依然として女性が男性を大きく上回った。

表3-2 曜日別家事関連時間(15歳以上) (単位：時間.分)

		週全体		平日		土曜日		日曜日	
			増減		増減		増減		増減
岐阜県	総数	2.16	△ 0.03	2.10	△ 0.04	2.29	△ 0.01	2.39	△ 0.04
	男	0.44	△ 0.03	0.34	△ 0.02	0.58	△ 0.04	1.12	△ 0.10
	女	3.45	0.01	3.39	△ 0.03	3.53	0.06	4.01	0.02
全国	総数	2.13	△ 0.03	2.07	△ 0.05	2.26	0.03	2.32	△ 0.02
	男	0.45	0.02	0.36	0.02	1.04	0.05	1.14	0.03
	女	3.38	△ 0.07	3.34	△ 0.09	3.43	△ 0.04	3.45	△ 0.07

注：増減は前回調査 (H23) からの増減

4 3次活動時間

(1) 休養等自由時間活動の時間

○休養等自由時間活動の時間は前回より増加

3次活動時間のうち休養等自由時間活動(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ)の時間は4時間3分で、3次活動時間の約6割を占めている。

(2) 積極的自由時間活動の時間

○積極的自由時間活動の時間は男性が女性より長い

積極的自由時間活動(学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動)の時間をみると1時間9分で、男女別にみると、男性は1時間25分、女性は54分で男性が31分長くなった。

表4 自由時間活動の時間(15歳以上) (単位：時間.分)

		3次活動		休養等自由時間活動		積極的自由時間活動	
			増減		増減		増減
岐阜県	総数	6.26	0.01	4.03	0.02	1.09	0.01
	男	6.49	0.15	4.14	0.02	1.25	0.10
	女	6.04	△ 0.13	3.53	0.00	0.54	△ 0.08
全国	総数	6.22	△ 0.05	3.54	△ 0.06	1.13	0.02
	男	6.36	△ 0.02	4.00	△ 0.04	1.28	0.04
	女	6.09	△ 0.07	3.50	△ 0.07	1.00	0.01

注：増減は前回調査 (H23) からの増減

5 スマートフォン・パソコンの使用状況

○スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合は、20～24歳でもっとも高い

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合（以下「使用割合」という。）は、男性は59.4%、女性は57.4%となった。

男女、年齢階級別にみると、男女共に20～24歳の使用割合がもっとも高くなっており、いずれも90%を超える。15～39歳及び45～64歳の各階級では、女性の方が使用割合が高くなっている。

曜日別にみると、男女共に日曜日は平日、土曜日に比べ使用割合が低くなっている。

表5-1 年齢階級別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の人数及び割合－週全体

(単位：%)

	総数				男				女			
	岐阜県		全国		岐阜県		全国		岐阜県		全国	
	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)
総数	1,807	1,054	58.3	60.1	876	520	59.4	61.9	931	534	57.4	58.4
10-14歳	95	52	54.7	59.1	49	28	57.1	59.8	47	24	51.1	58.4
15-19歳	103	91	88.3	87.0	53	45	84.9	86.8	50	46	92.0	87.2
20-24歳	89	84	94.4	89.9	44	40	90.9	88.4	45	44	97.8	91.5
25-29歳	92	80	87.0	88.3	47	39	83.0	86.5	45	40	88.9	90.3
30-34歳	103	86	83.5	86.9	52	41	78.8	85.5	51	45	88.2	88.4
35-39歳	119	96	80.7	84.8	61	47	77.0	83.7	59	50	84.7	85.9
40-44歳	148	120	81.1	81.5	75	61	81.3	79.7	73	59	80.8	83.3
45-49歳	141	111	78.7	76.8	70	52	74.3	73.9	71	59	83.1	79.7
50-54歳	121	86	71.1	70.9	60	40	66.7	67.9	61	46	75.4	74.0
55-59歳	120	69	57.5	60.7	58	32	55.2	60.0	62	37	59.7	61.4
60-64歳	131	64	48.9	45.7	63	30	47.6	46.7	68	34	50.0	44.7
65-69歳	170	60	35.3	34.3	82	34	41.5	37.8	88	27	30.7	31.0
70-74歳	120	26	21.7	24.6	57	14	24.6	29.0	64	11	17.2	20.9
75歳以上	254	30	11.8	10.8	105	18	17.1	15.4	149	13	8.7	7.7

注：スマートフォン・パソコンなどの使用割合は、人口に占めるスマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合を算出

表5-2 曜日別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の人数及び割合(平成28年)

(単位：%)

	週全体				平日				土曜日				日曜日			
	岐阜県		全国		岐阜県		全国		岐阜県		全国		岐阜県		全国	
	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	使用割合 (%)
総数	1,807	1,054	58.3	60.1	1,807	1,060	58.7	60.4	1,807	1,054	58.3	60.4	1,807	1,024	56.7	58.4
男	876	520	59.4	61.9	876	520	59.4	62.2	876	524	59.8	62.4	876	514	58.7	60.2
女	931	534	57.4	58.4	931	540	58.0	58.7	931	530	56.9	58.4	931	510	54.8	56.7

注：スマートフォン・パソコンなどの使用割合は、人口に占めるスマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合を算出

表5-3 スマートフォン・パソコンなどの使用の有無、使用時間別の構成比

(単位：%)

		総数	使用しなかった	使用した					
				1時間未満	1-3時間未満	3-6時間未満	6-12時間未満	12時間以上	
岐阜県	総数	100.0	41.7	58.3	35.8	37.4	18.1	7.0	1.7
	男	100.0	40.6	59.4	35.1	36.5	19.3	7.7	1.4
	女	100.0	42.6	57.4	36.6	38.5	17.0	6.0	1.9
全国	総数	100.0	39.9	60.1	32.7	39.0	18.9	7.1	2.3
	男	100.0	38.1	61.9	30.3	39.8	20.1	7.5	2.4
	女	100.0	41.6	58.4	35.1	38.3	17.6	6.8	2.2

注：使用時間別の構成比については、使用した人における割合（使用時間不詳を除く）

注)ここでいう「スマートフォン・パソコンなど」とは、スマートフォン・パソコンのほか、スマートフォン以外の携帯電話、タブレット型端末を含む。

注)ここでいう「スマートフォン・パソコンなどの使用」とは、学業、仕事以外の目的で使用した場合をいう。

【生活行動に関する結果】

1 学習・自己啓発・訓練

○女性の方が高い行動者率

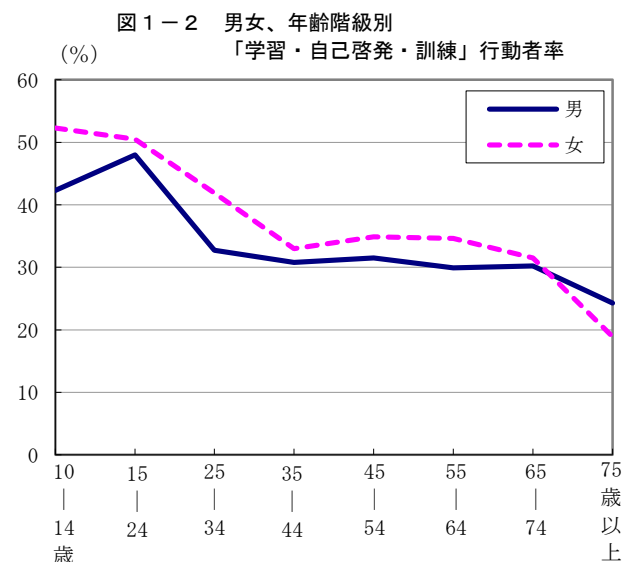
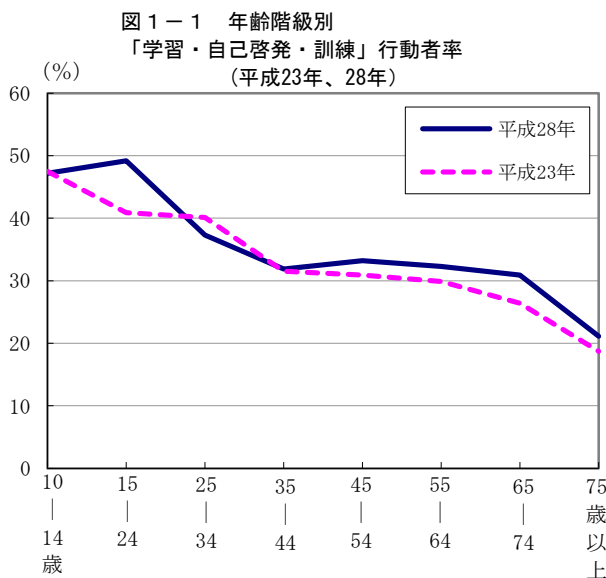
「学習・自己啓発・訓練」の行動者数は60万9千人で、行動者率は33.7%となった。

男女別にみると、男性は32.7%(行動者数28万6千人)、女性は34.7%(同32万3千人)となっており、女性が2.0ポイント高くなった。

行動者率を前回と比べると、1.8ポイント上昇した。これを男女別にみると、男性が2.5ポイントの上昇、女性が1.3ポイントの上昇となった。

全国(36.9%)と比べると、本県は3.2ポイント低く、順位は全国第25位となった

行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳が49.2%と最も高く、35～44歳が31.9%と65～74歳(30.9%)、75歳以上(21.1%)に次いで行動者率が低くなった。また45歳以上は年齢が高くなるにつれて低下した。男女別にみると、75歳以上を除くすべての各階級で女性の方が高くなった。



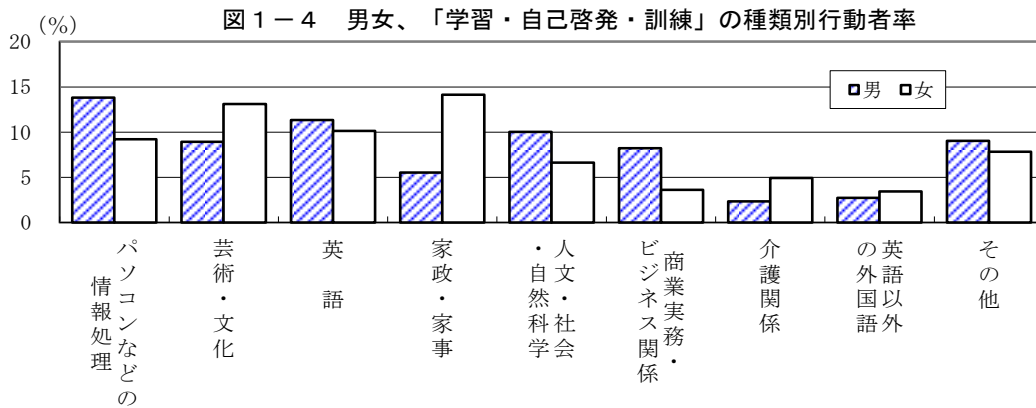
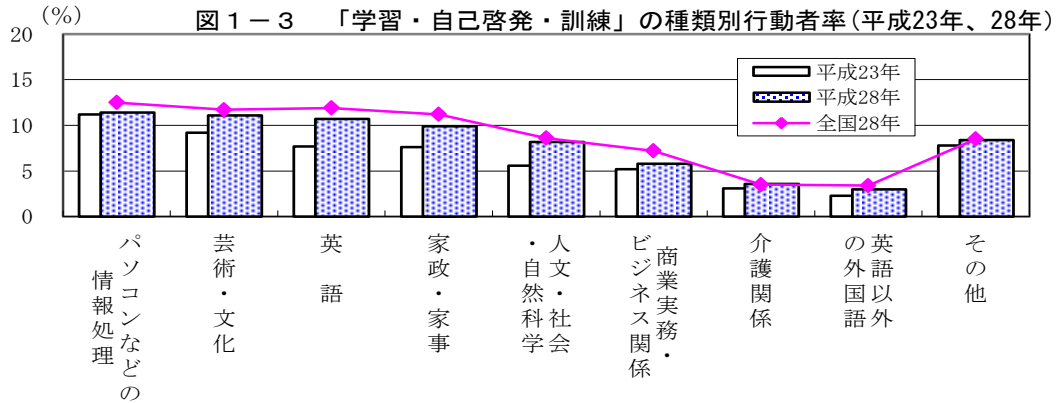
注：「学習・自己啓発・訓練」は社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業(授業、予習、復習)として行うものは除き、クラブ活動や部活は含む。

○「英語」、「家政・家事」は行動者率が上昇

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が11.4%と最も高く、次いで「芸術・文化」(11.1%)、「英語」(10.7%)などとなった。

前回調査(H23)と比べると「英語」は3.0ポイント上昇、「家政・家事」は2.3ポイント上昇、「芸術・文化」が1.9ポイント上昇などとなった。「英語」は10～14歳、15～24歳ではいずれも30%を超えるなど10代から20代前半の世代で行動者率が高くなった。

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が最も高く、次いで「英語」、「人文・社会・自然科学」などとなった。女性は「家政・家事」が最も高く、次いで「芸術・文化」、「英語」などとなった。



2 ボランティア活動

○行動者率は全国を上回り、順位は全国第2位

「ボランティア活動」の行動者数は60万4千人で、行動者率は33.4%となった。男女別にみると、男性は33.2%（行動者数29万1千人）、女性は33.7%（同31万3千人）と女性が0.5ポイント高い。

前回調査（H23）と比べると、行動者率は0.6ポイント上昇（男性1.8ポイント上昇、女性0.5ポイント低下）した。

全国（26.0%）と比較すると、本県は7.4ポイント高く、順位は全国第2位となった。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が44.5%と最も高く、男女別にみると、10～54歳及び65～74歳を除く各階級で女性の方が高くなった。

図2-1 年齢階級別「ボランティア活動」行動者率(平成23年、28年)

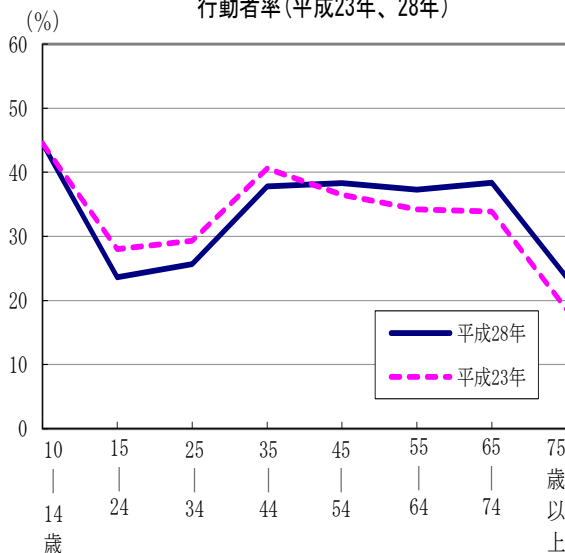
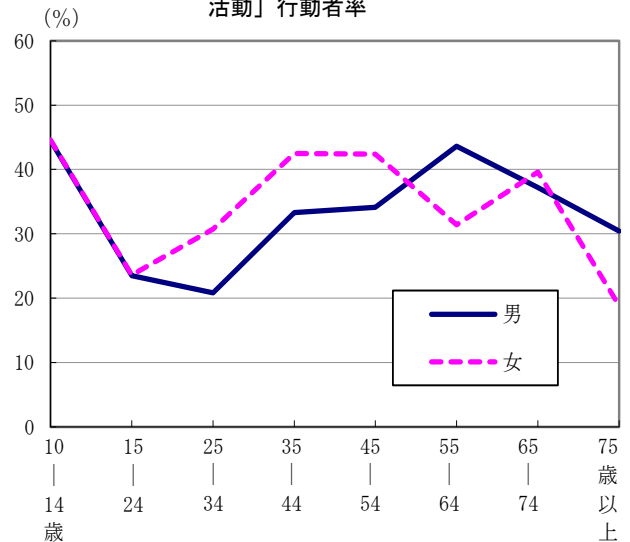


図2-2 男女、年齢階級別「ボランティア活動」行動者率



○行動者率は「まちづくりのための活動」がもっとも高い

「ボランティア活動」の種類別行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が18.2%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」(10.2%)、「安全な生活のための活動」(7.0%)などとなった。

前回調査(H23)と比べると「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」で0.9ポイント、「まちづくりのための活動」は0.8ポイント上昇しており、「災害に関する活動」は2.5ポイント低下した。

全国と比べると、最も高い「まちづくりのための活動」は全国(11.3%)を6.9ポイント上回った。

男女別にみると、男女ともに「まちづくりのための活動」が最も高く、男性は「安全な生活のための活動」、女性は「子供を対象とした活動」が続いている。

図2-3「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成23、28年)

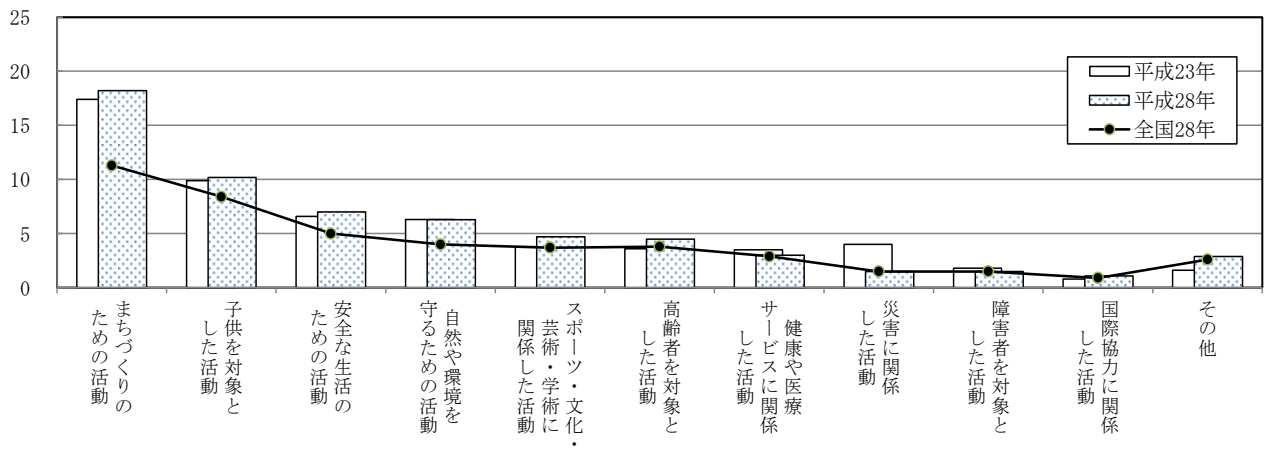
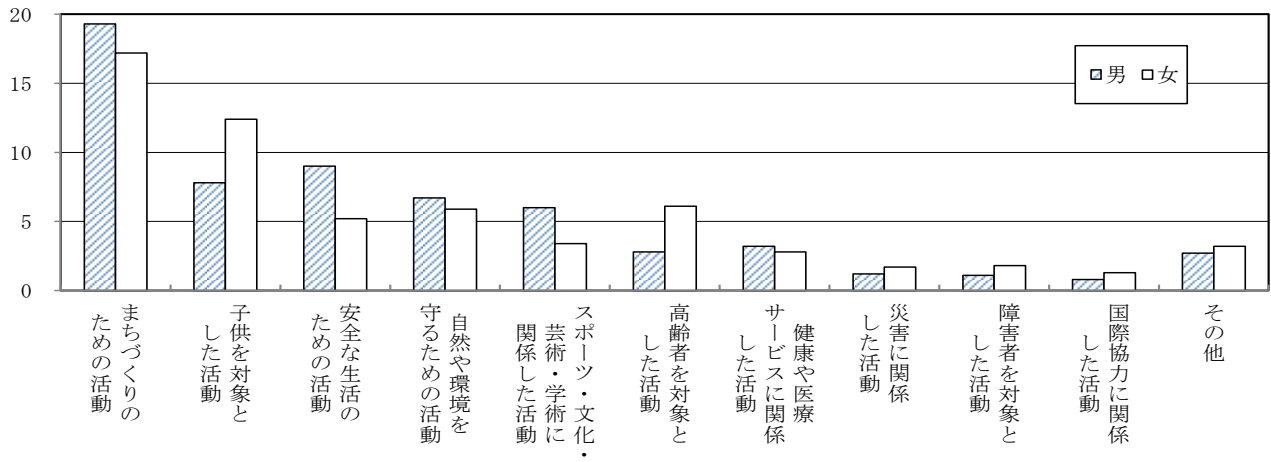


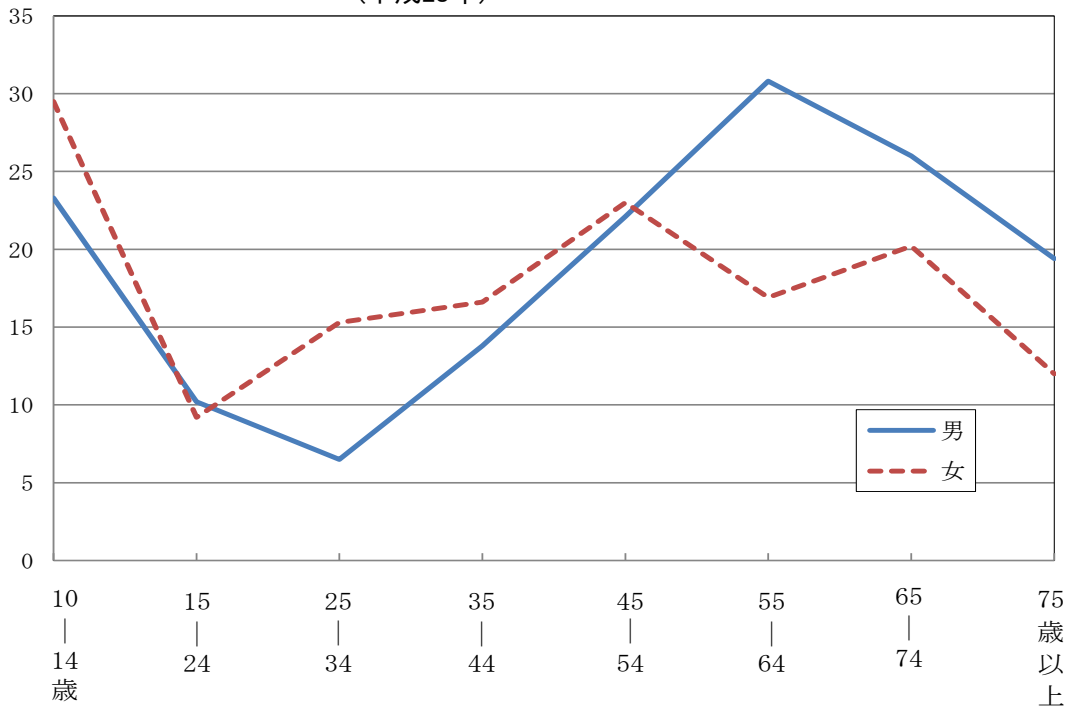
図2-4 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率



○「まちづくりのための活動」は男性の55~64歳が高い行動者率

「まちづくりのための活動」の行動者率を男女別にみると、男性は55~64歳が最も高く、女性では10~14歳が最も高くなった。25~54歳の各年齢階級では女性が男性を上回ったが、55歳以上の各年齢階級では男性が上回った。特に55~64歳では男性が女性を10ポイント以上上回った。

図2-5 「まちづくりのための活動」の男女、年齢階級別行動者率
(平成28年)



3 スポーツ

○若年層で高い行動者率

「スポーツ」の行動者数は121万8千人で、行動者率は67.4%となった。男女別にみると、男性は73.3%（行動者数64万2千人）、女性は61.9%（同57万6千人）となっており、男性が11.4ポイント高くなっている。

前回と比べると5.7ポイント上昇しており、男女別には、男性が6.3ポイントの上昇、女性が5.1ポイントの上昇となっている。

全国（68.8%）と比べると、本県は1.4ポイント低く、順位は20位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が87.5%と最も高く、おおむね年齢が高くなるにつれて低下しているが、65～74歳の行動者率は71.2%と25～64歳の各階級を上回っている。男女別にみると、すべての各階級で男性の方が高くなっている。

図3-1 年齢階級別「スポーツ」行動者率
(平成23年、28年)

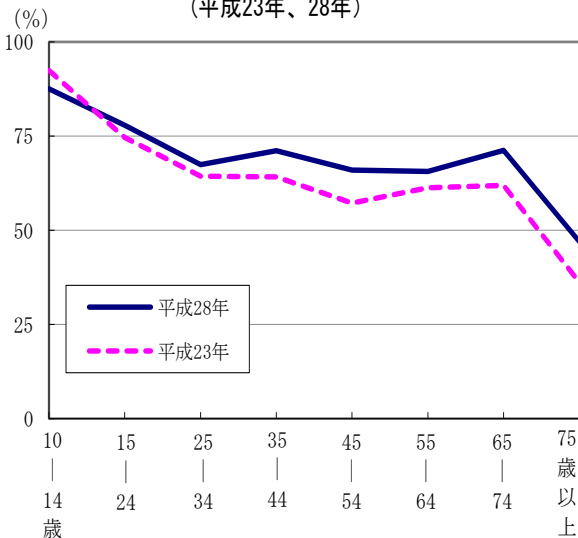
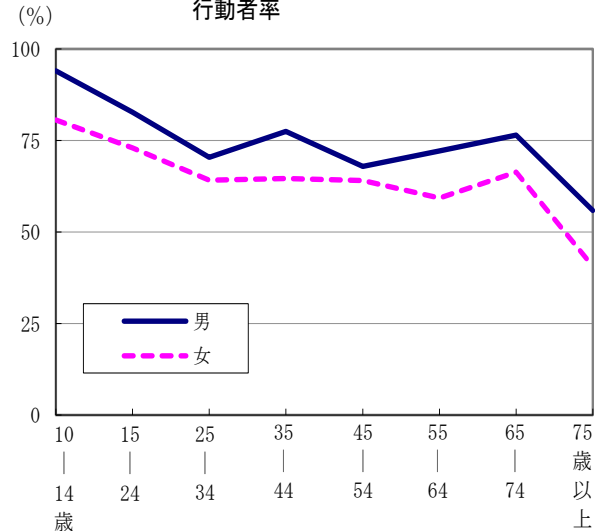


図3-2 男女、年齢階級別「スポーツ」行動者率



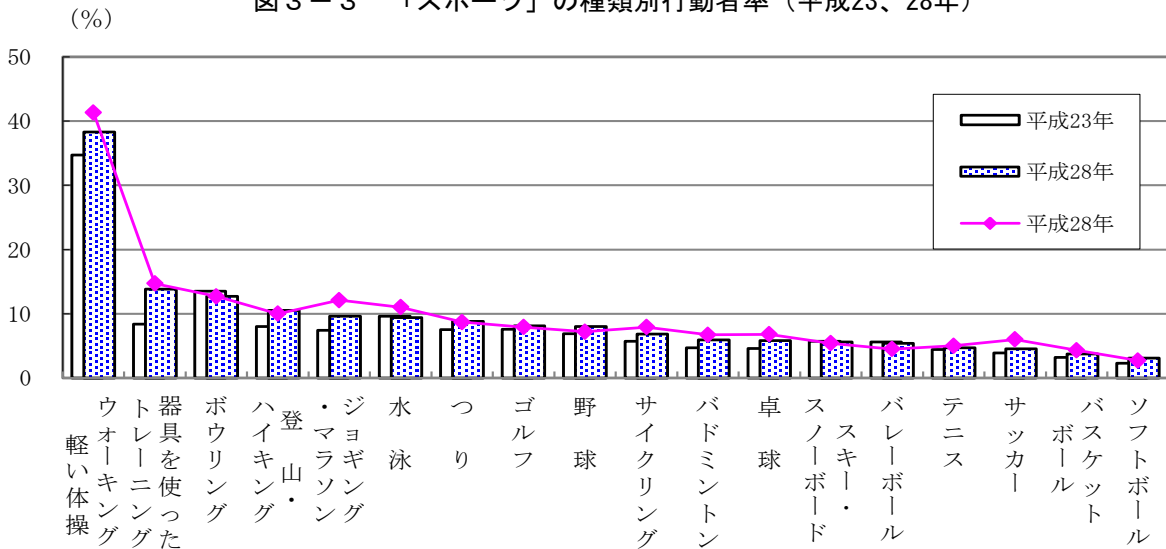
○ほぼすべての種類で上昇した行動者率

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が38.3%と最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」（13.8%）、「ボウリング」（12.7%）などとなっている。

男女別にみると、男女ともに「ウォーキング・軽い体操」、次いで「器具を使ったトレーニング」などの順となっている。

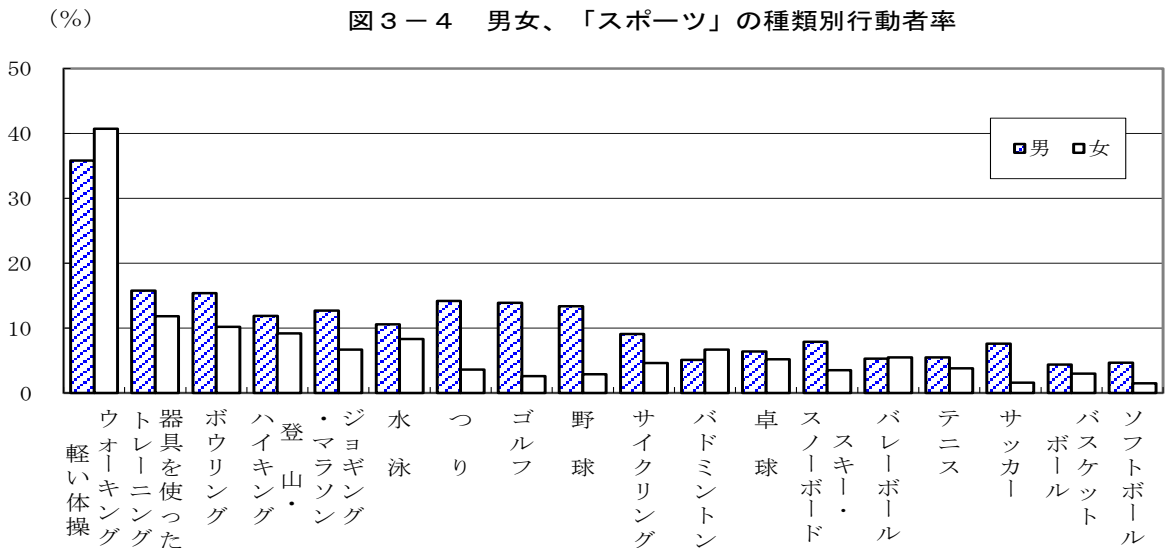
前回と比べてほぼすべての種類で増加したが、「ボウリング」、「水泳」、「スキー・スノーボード」は低下している。

図3-3 「スポーツ」の種類別行動者率（平成23、28年）



注：行動者率が3%以上の種類を表章。

図3-4 男女、「スポーツ」の種類別行動者率



注：行動者率が3%以上の種類を表章。

4 趣味・娯楽

○8割超が「趣味・娯楽」を行う

「趣味・娯楽」の行動者数は154万4千人で、行動者率は85.4%となっている。男女別にみると男性が85.9%（行動者数75万2千人）、女性が85.0%（同79万1千人）で、男性が0.9ポイント高くなっている。

前回と比べると、行動者率は1.6ポイント上昇しており、男女別には、男性が1.8ポイント、女性が1.6ポイント上昇している。

全国（87.0%）と比較すると、本県は1.6ポイント低く、順位は22位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳が最も高く、おおむね年齢が高くなるにつれて低下している。男女別にみると、25～74歳までの各階級では、35～44歳を除いて女性の方が高くなっているが、75歳以上では男性の方が高くなっている。

図4-1 年齢階級別「趣味・娯楽」行動者率
(平成23年、28年)

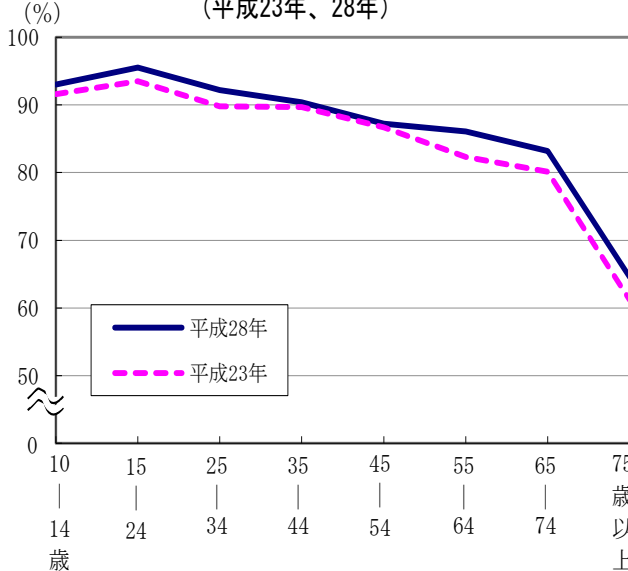
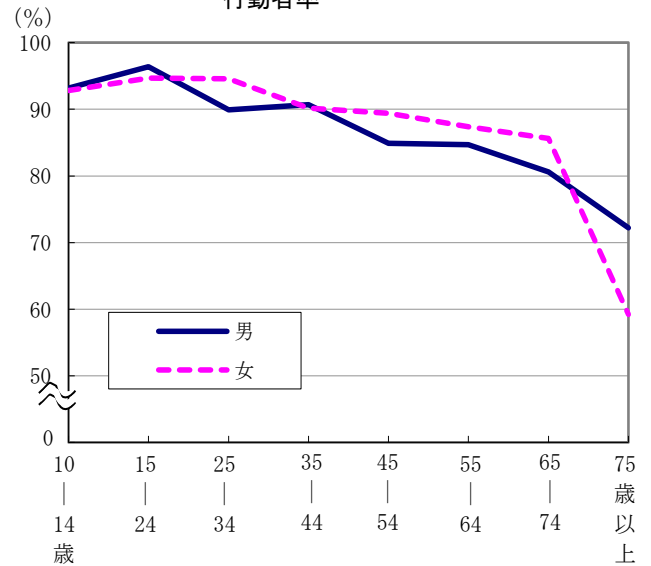


図4-2 男女、年齢階級別「趣味・娯楽」行動者率



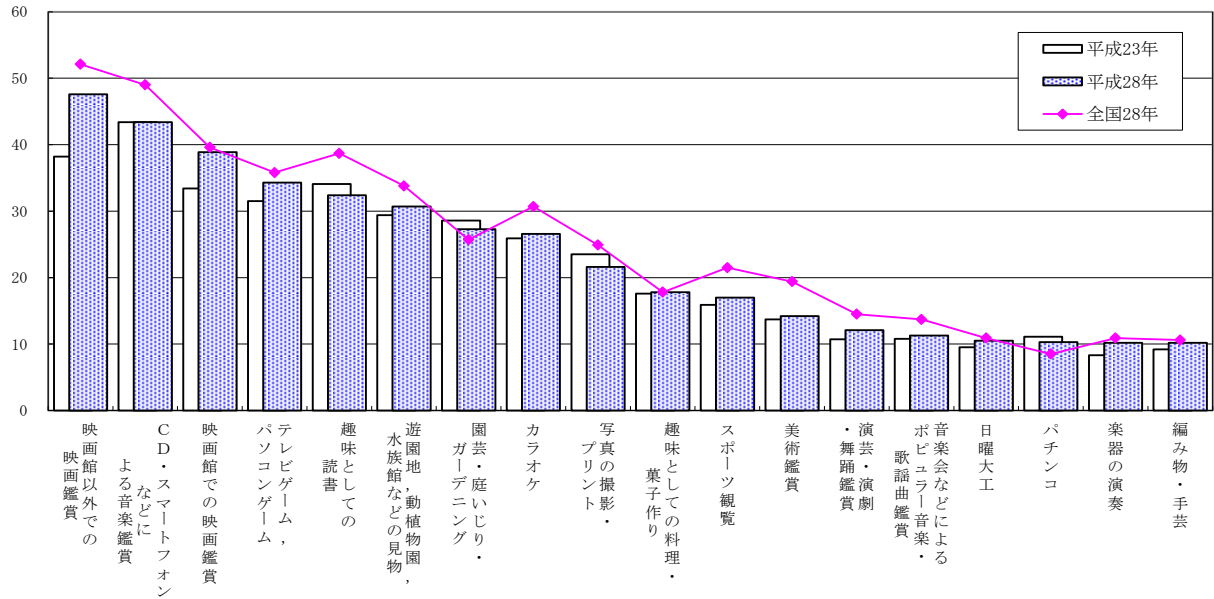
○ほぼすべての種類で上昇した行動者率

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」が47.6%と最も高く、次いで「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」（43.4%）、「映画館での映画鑑賞」（38.9%）などとなっている。これを男女別にみると、男女ともに「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」が最も高く、次いで「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」となっており、これに男性は「テレビゲーム、パソコンゲーム」、女性は「映画館での映画鑑賞」が続いている。

前回と比べると、ほとんどの種類で行動率が上昇したが、「趣味としての読書」、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「写真の撮影・プリント」などは前回は下回った。

(%)

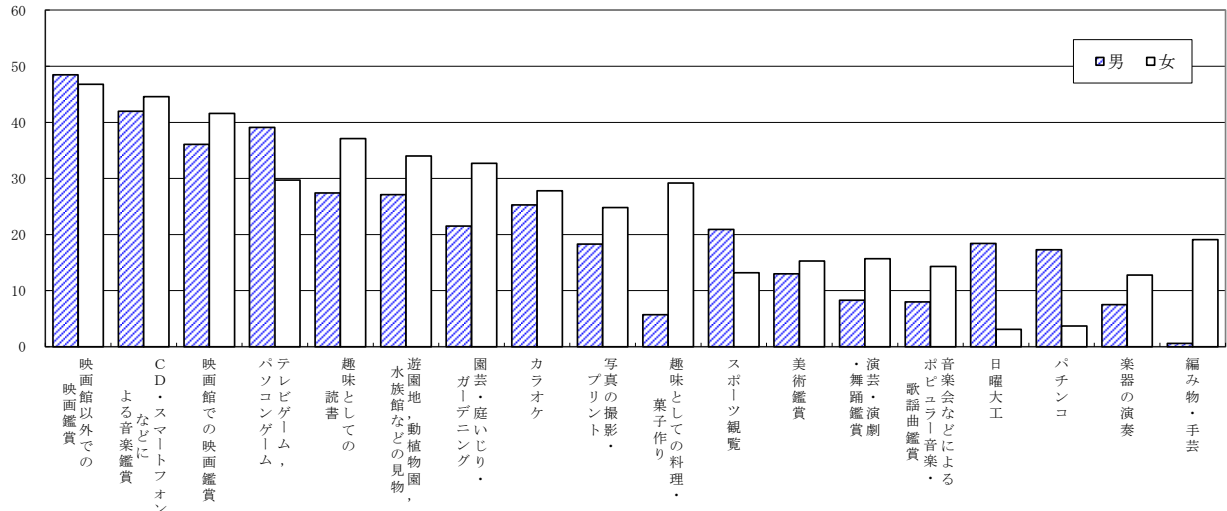
図 4-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成23年、28年）



注：行動者率が10%以上の種類を表章。

(%)

図 4-4 男女、「趣味・娯楽」の種類別行動者率



注：行動者率が10%以上の種類を表章。

5 旅行・行楽

○行動者率は全国を上回り、順位は10位

「旅行・行楽」の行動者数は135万4千人で、行動者率は75.0%となっている。男女別にみると、男性が73.2%（行動者数64万1千人）、女性は76.6%（同71万3千人）で、女性が3.4ポイント高くなっている。

前回に比べると行動者率は0.4ポイント上昇しており、男女別にみると、男性が1.2ポイントの上昇、女性が0.4ポイントの低下となっている。

全国（73.5%）と比較すると、本県は1.5ポイント高く、順位は10位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、10歳から74歳までの各階級においてはほぼ75%を超え、10～14歳で86.9%と最も高くなっている。男女別にみると10～74歳のすべての階級で女性の方が高くなっている。

注）平成23年は「旅行・行楽」に「業務出張・研修・その他」を含めて調査しており、比較には注意を要する。

図5-1 年齢階級別「旅行・行楽」行動者率
(平成23年、28年)

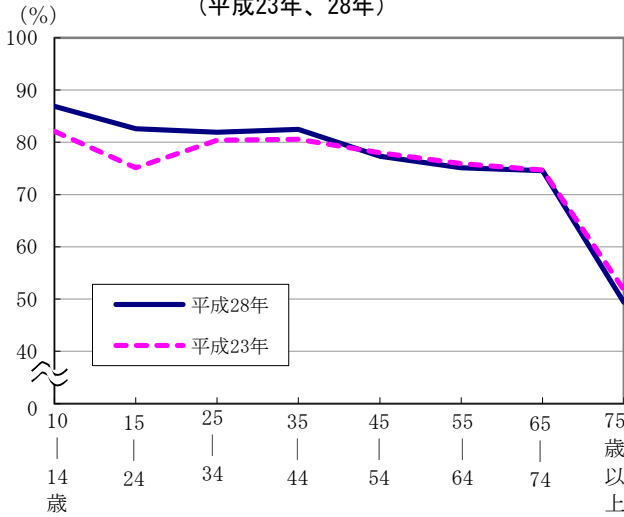
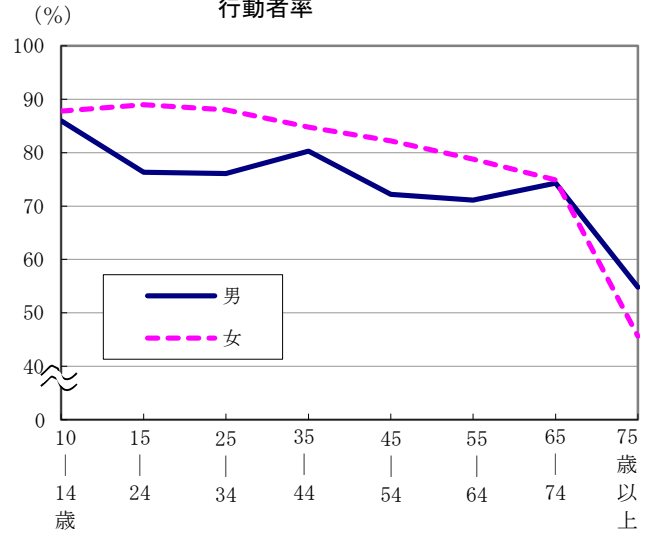


図5-2 男女、年齢階級別「旅行・行楽」行動者率



○前回に比べ行動者率が上昇

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が62.3%、観光旅行では国内が48.2%、海外が6.9%となっている。これを男女別にみると、すべての種類で女性の方が高くなっている。

前回と比べると、「行楽（日帰り）」は1.0ポイント低下しているものの、「帰省・訪問などの旅行」は2.5ポイント、「観光旅行（国内）」は1.3ポイント、「観光旅行（海外）」は0.2ポイントそれぞれ上昇しており、「行楽（日帰り）」を除くすべての種類で行動者率が上昇している。

全国と比べると、「行楽（日帰り）」は全国(59.3%)を3.0ポイント上回っているが、「観光旅行(国内)」は全国(48.9%)を0.7ポイント、「観光旅行(海外)」は全国(7.2%)を0.3ポイント下回っている。

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率
(平成23年、28年)

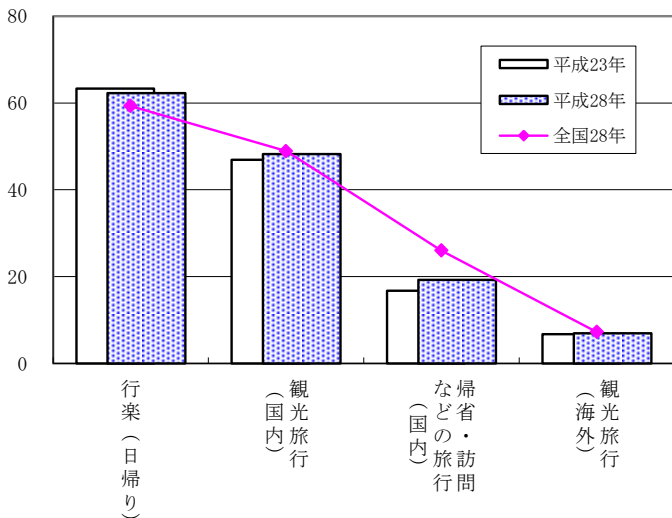


図5-4 男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率

